

# 1 学校経営の概要

## 1 学校教育目標

自ら学び 心身ともにたくましく 互いに高め合う児童の育成

### 【めざす学校像】

- 学ぶ楽しさを実感しながら、「確かな学力」が身につく学校
- 豊かな心が育ち、児童が主体的に活動する学校
- 保護者や地域と連携し、ともに子どもを育む学校

### 【めざす児童像】

- 自ら学び、よく考え、自分の考えを表現できる子 (夢いっぱい)
- 心豊かで、思いやりのある子 (笑顔いっぱい)
- 健康で、がんばりぬく子 (元気いっぱい)

### 【めざす教職員像】

- 子どものよいところを見つけ、一人一人を認め励ます教職員
- 子どもの命と健康を守る教職員
- 絶えず自己研鑽に努め、わかる・できる授業づくりを実践する教職員
- 「チーム学校」の一員として、互いに連携、協力し合う教職員
- 働き方改革を意識し、児童に指導・支援にあたる時間を最優先する教職員

## 2 重点目標

児童が未来への夢や希望を抱き、楽しく充実した学校生活を送ることができるよう、職員相互で創意工夫をし、地域とともに歩む学校づくりに努める。

- (1) 様々な体験活動や道徳指導の充実を図り、児童の豊かな心の育成に努める。
- (2) 日常の校内研修や授業研究を通して、職員相互の磨き合いの場を設け、それぞれの経験や力が十分発揮できるようにする。また、外部講師や指導主事を活用した授業力の向上に努める。
- (3) 児童個々の実態や特性を把握し、基礎的・基本的な学力の定着を図るとともに、学習指導の工夫・改善に努め、確かな学力を育成する。
- (4) 健康・安全な生活習慣づくりを推進するとともに、健やかで活力のある児童の育成に努める。
- (5) 児童一人一人の教育的ニーズに対応した特別支援教育に努める。
- (6) 教育環境の整備とその活用に努め、地域と連携した安全で安心な学校づくりを推進する。
- (7) 近隣の保育園、小中学校、高等学校との連携を深め、交流学习を積極的に推進する。
- (8) 学校評価をPDCAサイクルの確立から教育活動の改善に役立てるとともに、保護者、地域から信頼される開かれた学校づくりに努める。

### 3 経営の具体的方策

#### (1) 学習指導の充実と改善

- ①基礎・基本の確実な定着と、学習活動全体を通じた言語に対する興味関心を高め、思考力や判断力、表現力を育成する。(主体的・対話的で深い学びの実現を通して)
- ②地域素材を積極的に活用した体験的学習等を取り入れ、児童相互、学校と地域がかかわり合い、学び合える活動を充実させる。
- ③自己存在感を与え、共感的な人間関係を築き、自己決定の場を与える生徒指導の機能を取り入れた「わかる・できる授業」の展開をめざす。
- ④読書活動の充実をめざし、校内の図書環境の整備、町の図書館の貸し出しや予約システムの活用を図る。朝読書の時間を位置づけ、読書の時間の工夫をするとともに、地域の読み聞かせボランティアとの連携を深めることにより、進んで本に親しむ児童を育てる。
- ⑤自己評価や相互評価など多様な評価を取り入れ、評価に基づいた指導方法の工夫、改善を行う。
- ⑥ICTの効果的な活用と日常的な実践から、プログラミング教育を充実させる。

#### (2) 道徳教育の充実

- ①道徳科の時間を中核とし、学校教育活動全体を通して、また保護者や地域との連携から、一人一人の道徳的実践力を培うとともに、多様な体験活動を通して豊かな心の育成と規範意識を養う。
- ②映像資料の積極的な活用や、「考え、議論する道徳」を意識した授業の工夫・改善を進めるとともに、指導・評価の充実に向けた研修を計画的に実施する。

#### (3) グローバル化に対応した教育の充実(外国語教育)

- ①外国語活動、外国語科の時間の充実やALTとの交流活動を通して、英語に対する興味・関心を高め、コミュニケーション能力を育成する。
- ②外国語の学習を通して、日本の歴史・文化、また地域の伝統や風土についての客観的理解を深め、自分の考えを主体的に発信する力を育成する。

#### (4) 特別活動の充実

- ①学級活動や学校行事等を通して、児童の自発的な活動を促し、集団の一員として互いに認め合い、協力し合って、楽しい学校生活を過ごそうとする態度を育てる。
- ②保護者や地域との連携により、奉仕活動や体験活動の充実を図り、豊かな人間性や社会性を育てる。

#### (5) 生徒指導の充実

- ①全教職員が、児童一人一人にきめ細かく目を配り情報を共有することで、児童理解を確かなものとし、個々の存在感を高め、自己肯定感を育む指導を推進する。
- ②積極的かつ適切な生徒指導を展開し、好ましい人間関係を作り上げるとともに、いじめや差別のない、自他の命を尊重し、大切に作る学校づくりを推進する。
- ③縦割り班の活動を積極的に取り入れ、児童の豊かな人間関係、社会性、コミュニケーション能力を育成する。

#### (6) 特別支援教育の充実

- ①個々の教育的ニーズに応じた適切な教育支援計画及び指導計画を作成し、通常の学級内での支援を含め、一人一人が充実した学校生活を送れるよう、特別支援コーディネーターを中心に組織的に指導する。

- ②通常の学級や特別支援学校，他校との交流を通して，望ましい人間関係を育てるための連携，交流を進めるとともに，特別支援アドバイザーの招聘等，特別支援教育に関する研修の機会を確保する。

### **(7) 健康の保持増進・体力の向上と安全教育の充実**

- ①教科体育の充実及び朝マラソンや業間等の運動，外遊び，運動系の特別クラブでの活動を推進し，健康の保持増進・体力の向上をめざす。
- ②家庭や地域との連携から，生涯を通じて健康な生活を送るために必要な態度や生活習慣を定着させる。
- ③あらゆる危険を見分けたり回避する能力と，自他の命を大切に作る心を育てる。
- ④教育活動全体を通して，望ましい栄養，食事のとり方の理解から，自己管理能力の育成を図る。

### **(8) キャリア教育の充実**

- ①自らの生き方を考え，夢をもって生きることができるよう，体系的，継続的に指導するとともに，将来社会人として自立するために必要な資質，能力を育てる。
- ②係活動や清掃活動，勤労生産的な活動を通して，自分の役割を果たそうとする意欲や態度を育てる。

### **(9) 教職員間の共通理解と組織の活性化**

- ①「報告，連絡，相談」を密にし，風通しのよい職場をつくとともに，学校経営上の課題を共通理解し，全職員が参画する体制づくりから，教職員としての使命感の高揚，組織の活性化を実現する。
- ②勤務時間適正化への意識改革のもと，業務改善，校務の効率化から働き方改革を推進する。
- ③「チーム西小」として結束し，連携・協力しながら信頼関係を構築して，資質と力量の向上を実現する。
- ④若手教員が企画する自主研修の推奨と職場全体のモラールアップから，若手教員の個々の力量向上と，不祥事根絶をめざす。